

# 誰もが安心して暮らせる まちを目指して

平成27年（2015年）に国連サミットで「SDGs（持続可能な開発目標）」が採択されました。これは“誰一人取り残さない社会の実現”を目指し、持続可能な世界を実現するために17の目標を定めたものです。上下水道局では「誰もが安全で安心して暮らせるまち」を目指して事業を進めており、これはSDGsの目標達成への貢献につながります。そこで今回は、SDGsの理念を念頭に置いた上下水道局の具体的な取り組みを紹介します。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



エスディーゼズと読み、Sustainable Development Goalsという英語の略称で、「持続可能な開発目標」と訳されています。2016年から2030年までの国際目標で、貧困や飢餓、男女の平等、生態系の保全、平和と公平など、17項目の目標と、具体的な目標を示した169のターゲットが掲げられています。

## 災害に強く、環境にやさしいまちづくり



### ○浸水対策・災害対策【下水道】

近年増加傾向にある集中豪雨による浸水被害を軽減するため、浸水が頻繁に発生する地域において、雨水渠を整備しています。（※1）

また、大雨が降った際の浸水に対する危険性をお知らせするために、内水ハザードマップを本市ホームページで公開しています。



※1 雨水渠の整備は、主にボックスカルバートと呼ばれる箱型のコンクリート構造物を繋げて水路を作ります。

### ○水質保全・汚水高度処理【下水道】

瀬戸内海環境保全特別措置法により水質総量規制が導入されている瀬戸内海周辺において、富栄養化による赤潮などの環境問題に対処するため、原因となる「窒素」や「りん」を一部除去する高度処理を、山陰終末処理場の一部、山陽終末処理場、豊浦中部浄化センターの3処理場で導入しています。



山陽終末処理場

# 安全で安定したライフライン

3 すべての人に健康と福祉を



6 安全な水とトイレを世界中に



11 住み続けられるまちづくりを



## ○浄水施設等の適切な維持管理【水道】

給水人口が減少していく中、ライフラインとしての機能を持続させるため、老朽化した施設や管路の更新時に、将来的な水需要を考慮した施設の統廃合などによる施設規模の見直しに取り組んでいます。

## ○水質検査計画に基づく水質管理【水道】

安全な水道水をお届けするため、毎年度策定する「水質検査計画」に基づき、水源から蛇口までの水質検査を行い、徹底した水質管理を実施しています。また、本市では水道GLP（※2）を取得し、水質検査の精度と信頼性を確保しています。

※2 水道GLP…水道水質検査優良試験所規範（Good Laboratory Practiceの略）のことを言います。水道水の水質検査を行う機関による検査結果の精度と信頼性を確保することを目的として、公益社団法人日本水道協会によって作成された規格です。

## ○安定した水道水の提供【水道】

日々の暮らしに欠かすことのできない水を安定してお届けするため、水源の大部分を占める木屋川ダムを管理している山口県と連携して水源の変化を監視し、水資源の有効利用や環境保全に取り組んでいます。



木屋川ダム

## ○鉛管(えんかん)対策【水道】

貴重な水資源を無駄にしないため、経年劣化で漏水につながる鉛製(なまりせい)給水管を、漏水修繕工事及び耐震管工事に併せて随時解消に努めています。



漏水している鉛製給水管

## ○水洗化促進【下水道】

衛生的で快適な生活環境の向上と、海や河川、湖沼などの公共水域の水質保全を図るため、トイレの水洗化を推進しています。



## ○管の耐震化促進【水道】

災害時に給水が特に必要となる重要給水施設（総合病院や人工透析を行う医療機関など）に供給している配水管や老朽化した管路の更新による耐震化に取り組んでおり、個人給水管についても、耐震性のある水道管を採用しています。



耐震化工事の様子

# 上下水道事業の基盤強化・経営の安定化

16 平和と公正をすべての人に



17 パートナシップで目標を達成しよう



## ○広報広聴活動【上下水道】

広報誌やホームページ、イベントなどを通じて、上下水道事業についての情報をお知らせするとともに、マンホールカードを配布し下水道の普及啓発に努めています。



## ○官民連携【上下水道】

検針や料金徴収、漏水調査など様々な業務で民間企業と連携していますが、今後も官民連携の手法を検討し、経費の削減に努め、健全な経営に取り組んでいきます。

